

市制施行69周年表彰式 7名を表彰

6月11日、小松島市が昭和26年に市制を施行して今年で69周年を迎えたことを記念して、「市制施行69周年表彰式」が市役所3階市長応接室で開かれ、個人7名が表彰されました。

表彰されたのは次の方々です（順不同、敬称略）

表彰状	交通安全功勞	西川 秀子
	防犯功勞	金西 章
	社会福祉功勞	長樂 千英子
	自治功勞	脇谷 康廣
	保健衛生功勞	宮本 直紀

感謝状	ふるさと応援寄附	前田 尚宏
		神戸市在住の本市出身者（匿名希望）



中山市長(中央)と表彰式出席者

移住者インタビュー

「海が近いところで生活がしたい」
いもと いづこ
井本 幾子さん、デディ・スーサントさん（小松島町）

小松島市の二条通にある古民家「大正館」でインドネシア料理店「dicafe」を経営されている、井本幾子さん、デディ・スーサントさんご夫妻にお話を伺いました。

新店舗開業の場を求めて小松島市へ

「海が近いところで生活がしたいと思いましたが」と語られたのは井本幾子さん。徳島市内のご出身で、移住前は東京

や京都で生活されていました。京都でインドネシア出身のスーサントさんとご結婚され、夫婦でインドネシア料理店を開業。出産を機に、徳島県内で新しく店を開きたいと考えた時に、小松島市を選んだ理由がこれだったとのこと。

「子供が生まれたことを機に、地元の徳島県内で物件を探して料理店を開業したいと思いました。色々な物件を探しましたが、その時にご縁があつて大正館を紹介してもらいました。私は海が好きなので、港に近いことが気に入って決めました。」



井本幾子さん(右)とデディ・スーサントさん(左)

港から見える景色が好きで、よく家族で散歩すること。都市部から移住し生活環境が変わりましたが、元々の出身地から近いこともあり、小松島市での生活に不便を感じることはないそうです。ご自宅からは公共施設や交通機関などへのアクセスが良いので助かっているとのこと。

今の生活において、もっとこうなればいいなと思うことはありますか、と尋ねると、「私は田舎が好きなので、今のところ生活に不満はありません。ただ、都市部と比べて商業施設が少ないと思うことはあります」と語られました。

徳島とインドネシアとの懸け橋になりたい

家族内での会話は日本語・インドネシア語の両方を使われています。国際結婚で得られた縁を活かし、これからは徳島とインドネシアとの懸け橋になることが目標とのこと。店舗ではインドネシアの物産販売も始められました。「店舗での事業を通じて人と人とのつながりができればいい」と幾子さんは熱く語られていました。

